

かお・人・interview

2018年6月15日

新所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
遠賀川河川事務所 所長

大野良徳氏

遠賀川流域内人口は約62万人。流域内の人口密度は九州で1位だ。その生活を支える貴重な水源は、どのように守られ、維持管理されているのか。そして地域は、人々は川とどう向き合っているのだろうか。河川整備に関わる新任の大野所長にお話を伺う。

Q 所長就任にあたっての抱負

近年、地球温暖化に伴う気候変動により雨の降り方や水害の形態が変わってきていると感じています。河川管理者として着実に施設整備を進めていくことはもちろんのこと、施設能力を超える洪水等に対しても、犠牲者を出さず被害を最小化することを関係者がひとつになって取り組む必要があると強く思っています。それには国、県、市町村や関係機関が一致団結し、住民団体や住民等とも連携しながら防災・減災の取り組みを進める必要があるでしょう。

また、洪水時の備えを万全にするためには、日頃から川と付き合い、川の特性をよく知ることも重要だと考えています。

環境学習



学習教材

小学5年生対象
単元「国土の自然とともに生きる」
小単元「自然災害とともに生きる」

学習教材（案）
～わたしたちの地域を流れる
遠賀川を題材として～



河川事務所では、身近な自然災害を教材とした水防災プログラムを作成し、学校教育の推進を市町の教育委員会と学校と連携し進めています。また、河川協力団体等と協力し合い環境学習の推進も取り組んでいます。さらに、地域の自然を身近に感じてもらう「かわまちづくり制度」を活かした河川整備や、水辺の可能性に着目した「ミズベリング」など河川の利活用の仕掛けを、市町や住民団体と連携し推進していきたいと考えています。

Q 九州地区や福岡県との関わりについて

出身は佐賀県の武雄市ですが、最初の勤務地が久留米にある筑後川ダム統合管理事務所で、国管理の松原・下笠ダムや水資源機構管理の寺内ダム等の統合管理業務に携わりました。洪水調節機能や河川流量の確保機能など、ダムの持つ役割の大きさを実感するとともに、域外分水など水管理の難しさについて学びました。

九州地方整備局の企画部では、北部九州の水資源開発の計画策定や調査等の業務を経験し、その後も、筑後川河川事務所や九州地方整備局の河川計画課でもダム事業の計画立案に従事するなど、北部九州の水資源開発に関連した業務に多く携わりましたので、福岡県での勤務や生活が十数年となっています。

Q 当事務所の紹介 (事業内容、組織、特徴)

遠賀川流域はフライパン型の地形です。下流域には北九州市や中間市、中流域には直方市や宮若市、上流域には飯塚市や嘉麻市、彦山川には田川市と、下流から上流まで遠賀川沿川に市街地が形成されており、流域関係自治体は22市町村を数えます。

そのため、遠賀川の流域面積は九州の国管理20河川中8番目、幹川流路延長は11番目と中規模の河川ですが、流域内人口は約62万人と九州で2番目に多く、流域内の人口密度は九州で1位となっています。

このようなことから、河川管理施設の数が約900施設と、九州の国管理河川の3割を占めるなど突出

しています。本川堤防の約8割が兼用道路であり、維持管理が難しい河川となっているのも遠賀川の特徴です。

現在の河川整備は、河川整備基本方針の1/150の目標に対し、平成19年4月に策定した河川整備計画に基づき目標安全度を1/40とし、直方市にある基準地点「日の出橋」において3,800m³/sを河道で流す整備を進めています。

また、河川管理施設の老朽化等維持管理上の課題解決のため、永続的に安定した維持管理方策を検討する仕組みづくりを進めており、樋門・樋管のフラップゲート化や統廃合の推進、維持管理がしやすい堤防断面の整備などの取り組みを進めています。

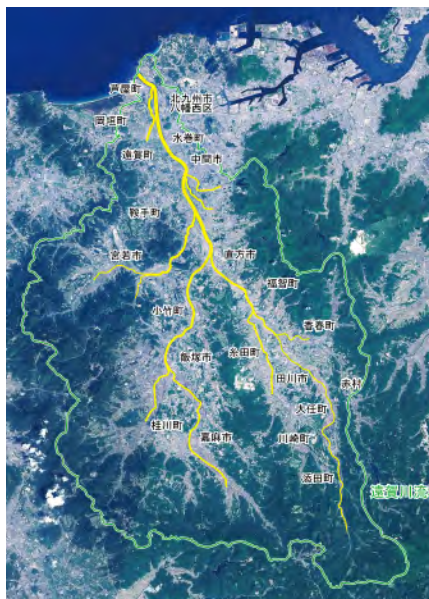
Q 平成30年の事業概要について

現在、下流から順に流下能力を向上させるため河道掘削を主体とした事業を進めています。下

部の流下能力向上のネックとなっていた、中間堰の改築がほぼ終わり、旧堰の撤去を残すのみとなっています。

今後は中間堰上流側の河道掘削を進めていくとともに、平成24年九州北部豪雨対応として進めている彦山川下流部の河道掘削、併せて小竹町など本川中流部の堤防整備並びに犬鳴川の堤防整備も進め、流域全体の整備をバランス良く進める予定としています。

また、平成29年九州北部豪雨では、彦山川の上流部で施設能力を超える洪水が発生しました。溢水等による被害が発生しており、現在、災害復旧事業等に対応しているところです。



▲遠賀川上空 航空写真





▲直方川づくり交流会

Q 地域との連携・協働について

遠賀川は、かつて、黒い川(またはぜんざい川)と呼ばれ、洗炭水により濁っていました。流域内の人口密度が高いことなども影響し、水質は九州の国管理河川でワースト上位に位置しています。

反面、環境意識の高まりから、約80の住民団体が流域内で環境保護活動を展開しています。

これらの住民団体と連携すべく、5つある出張所ごとに毎月1回の住民団体の交流会を開催しており、直方川づくり交流会が21年目を数えるなどすべての出張所において精力的に交流が行われています。

交流の成果として、現在、河川管理者のパートナーである河川協力団体として4団体を指定しており、河川環境の保全、防災、水辺を生かしたまちづくり等の啓発活動を積極的に展開していただいています。

先ほど申したとおり、遠賀川の流域自治体の数は22市町村と多く直轄管理区間の市町だけでも19市町となりますので、住民団体と更に連携を深めるとともに流域市町村とも更に連携を強化する取り組みを進め、地域が元気になる取り組みを展開したいと考えています。

Q 地域建設業への要望・メッセージ

遠賀川の河川整備を着実に進め、膨大な数の河川管理施設の適切な維持管理はもとより、災害時の対応にあたっては、流域内を熟知されている地元の建設業界の存在は極めて重要です。

昨年7月の九州北部豪雨の出水対応では、地元の建設業の機動力を発揮していただき、昼夜を問わず、河川の巡視や河川の緊急復旧工事に当たっていただき、被害を最小限にとどめ、迅速に応急措置を講じることができたと考えております。



災害時に昼夜を問わない機動力
被害を最小化し、応急措置を実現。
今後も地元建設業界の意見を聞きながら、
業界の発展に努力する。



これからも地元建設業界の皆様の意見を聞きながら、建設業界の発展のために努力して参りたいと考えています。

Q 趣味、健康法について

車でドライブするのが好きですが、どうしても運動不足になりがちです。現在は、単身赴任生活となりましたので、休日も直方で過ごす日が増えました。これを機に、自転車で流域内を散策してみたいと考えています。

そして、住民目線で遠賀川を語れるようになりたいと考えています。

プロフィール



出身地：佐賀県武雄市
生年月日：平成41年12月20日(51歳)
職歴：S60.4 建設省入省
(筑後川ダム統合管理事務所管理課)
H15.4～本省水管理・
国土保全局河川環境課
河川環境保全係長
H18.4～武雄河川事務所 調査課長
H20.4～筑後川河川事務所 開発調査課長、調査第一課長
H24.4～大分河川国道事務所 調査課長
H25.4～九州地方整備局河川部河川計画課 課長補佐
H27.4～熊本河川国道事務所 副所長
H28.4～本省河川計画課河川計画調整室 課長補佐

◀復旧作業は昼夜に関わらず続いた。